

▼東海

「歩こう会」

岡崎・八丁味噌蔵と岡崎公園

郡 修児(TVA)

「歩こう会」はコロナ禍がやや落ち着きを見せてきたことから春たけなわの4月14日、岡崎市内の八丁味噌蔵と岡崎公園を歩くウォーキングを開催しました。

コロナ禍でシニア層の外出やウォーキングの機会が減っていることを考慮し、今回は会報『東海民放クラブニュース』を通じて、「歩こう会」のメンバーだけに限定せず、東海民放クラブの会員ならだれでも参加できるオープン・スタイルで実施してみました。

岡崎市は三河地方を代表する歴史と文化を誇る古都。某テレビ局の大河ドラマ『どうする家康』の主人公である徳川家康・生誕の地ということで、今年は観光ブームが盛り上がりを見せています。

当日はやや曇り空ではありませんでしたが、定刻の午前9時半までに名鉄名古屋本線・岡崎公園前駅に集合し、元気にスタートを

切りました。ただ、残念ながら参加者は7人だけ(歩こう会会員はうち3人)。まだ外出に慎重な会員が多かったようです。

最初に向かったのは、地元の名産品である八丁味噌蔵「カクキュー八丁味噌の郷」。岡崎城から西へ八丁(約870m)の距離にある八帖町(はつちようちよう)で作られていることから八丁味噌と呼ばれるようになったもので、大豆と塩だけを原料に、2年以上味噌を熟成させる普通の手間暇かけた製法を守るメーカーは2社だけ。「カクキュー」はその1社で、1645年創業のまさに老舗の味噌メーカーです。



社員ガイドさんの流ちょうな解説を聞きながら、資料館を中心に、重石3トン・味噌6トン仕込みの大きな樽が並ぶ熟成蔵など、たつぷりと時間をかけて見学しました。最後にサービスの味噌汁を一杯いただき、思わずお土産に本場の赤だし味噌を買ってしまったメンバーも。ガイドさんの名調子につられたようです。

続いて1kmほど歩いて岡崎公園へ。岡崎城のある岡崎公園は、愛知県下で有数の桜の名所。例年なら4月中旬でも多少は花見を楽しむことができるのですが、今年は異常なほど開花が早く、残念ながら全くの葉桜。

ただ今回は、岡崎城から100mの場所に住むという、まさに地元の吉田正平会員(CBC)が参加されていたことで大いに救われました。吉田会員のご案内で、城の反対側にある「五万石の藤」を堪能できました。

満開というわけではありませんでしたが、7つの大株から柵一杯に広がる薄紫色の可憐さが美しく際立っていました。知らなければ気づかずに通り過ぎるようなところ、ラッキーでした。

「岡崎 大河ドラマ館」と「岡崎城」は参加者の自由見学とし、城内で現地解散。男性陣の4人は岡崎公園を堪能した後、連れ立って名鉄東岡崎駅に向かうことになりましたが、途中の寿司屋で腹ごしらえすることに。ビールで花見酒も楽しみ、充実した半日を過ごしました。



大きな八丁味噌樽の前で